

## 変える農業



アンテラ・キャピタル共同創設者アダム・アンダース氏(右)と筆者(中央)

国際IT財団 プログラムディレクター

日下部 裕美子

に着目し、農業に特化したVCを立ち上げた。  
世界で最も歴史のある農業銀行のラボバンクと世界最大規模の投資運用会社フィデリティが出資し、農業分野の深い経験に根ざした投資実行能力、バリュニアップを大きな強みとする。現在90人のリサーチチャーを擁し、130億円の規模のファンドを運用・管理している。

アムステルダムきっての高級地区、運河沿いにアグテック専門ベンチャーキャピタル(VC)のアンテラ・キャピタルがある。そのオフィスは、レンブラントと同時代、オランダが世界の貿易の中心

### アグテック投資をリードするアンテラ・キャピタル

貿易船に対して投資家を募ったことを起源として、

だった16〜17世紀当時の貿易商が所有した象徴的な建物である。  
同社は、この風光明媚なアムステルダムのオフィスのほか、世界最大のバイオテクノロジー集積地のポストンにも拠点を置くグローバル企業である。共同創設者のアダム・アンダース氏は、農業関連投資はセクター特有のリスクに関する知識や経験が必要であること

いる。2016年には全世界の農業系ベンチャー投資の20%を占める代表的なVCとなった。  
投資基準は、食品及び農業分野の企業の革新性である。特に、食品が農場から出荷され、消費者に届くまでのバリューチェーン全体に対応するソフトウェア開発企業やデジタルサービス企業に注目している。AIを活用した食料生産への応用サービスへの投資機会も

つある。また、新たに異業種のプレイヤーが農業にかかわってくることで、農業分野にAIやデジタルライゼーションが進んでいくと予測する。製薬業界でも、50年前から大手企業の寡占状態で、各社が何十億円を費やして、10年間かけて新薬を開発していたのが、現在では新薬開発の7割がベンチャー企業によるものである。アグテック分野に關しても、同様の潮流が来ると同氏はいう。

また、最近では、データ解析を用いた精密農業プラットフォームに対する関心が高まっており、投資の好機と見る、とも述べた。大手企業がこの動きに迅速に対応できないなか、VCやスタートアップ起業家が参入するチャンスとアンダース氏は語る。

最終回は、今回目の当たりにした世界の農業の大変革が、日本の農業にとってどのような意味を持っているのか、問題提起したい。